

講義名	心理学演習(体験学習で学ぶコミュニケーション)		
担当教員	中川 典子		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

主題と概要

SNSの普及は利便性とともに、以前には見られなかった新しい形式で人と人とを繋ぐツールを私たちの日常生活にもたらした。一方、SNSの台頭により、直接他者と対面しながらコミュニケーションをとりながら、人間関係を構築することに苦手意識をもつ若い世代の人たちが増えていることも否めない。本コースでは、「ラボラトリー方式」による体験学習を通してクラスメートとの対面によるコミュニケーション活動を実施する。様々な授業内活動を通して、グループワークにおけるプロセスを振り返り、良好な人間関係を築くために必要な知識と態度、そしてスキルを習得する。上記は人間社会学部人間社会学科のディプロマポリシーであるところの「現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てる」という本学の学生が共通に身につけておくべき資質・能力に貢献するものである。

到達目標

(1) 自分のこれまでの他者との関わり方を見直すことができる。
(2) どのようにして良好な人間関係を構築するのかについて、真剣に考えることができる。
(3) 自分自身を助つめ直すことができる。
(4) 多様な視点で物事を見ることができるようになる。
(5) 他者と協働することの意義や意義を考え、実践できるようになる。
(6) リーダーシップやコミュニケーションのあり様がグループダイナミクスに与える影響について考察できる。
(7) 実生活で他者と協働し、共存するためのコミュニケーション力を養うことができる。

上記を達成することによって、「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求め人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる」という心理コースのディプロマポリシーを達成することができる。

提出課題

授業中に取り組んだワークシートを提出する。授業の最後に、「振り返りシート」を執筆し、提出する。上記に加えて、適宜、登壇の授業の準備として他の課題を課す。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

受講生が提出した「振り返りシート」を翌週の授業でクラスで共有し、講師がコメントする。その際、書かれた質問にも回答することで、前週の授業内容に対する受講生の理解を深める。

評価の基準

(1) 授業参加(出席とは異なる)(10%)
(2) 課題(振り返りシート、ワークシート等)(50%)
(3) 最終レポート試験(40%)

履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の成績評価基準の(1)(2)(3)すべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
(2) 講師が入室したときに教室にいない学生は遅刻者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
(3) 授業開始後、15分以上の遅刻は欠席となる。遅刻3回で1回欠席、5回以上、欠席した場合は単位を取得することはできない。
*遅刻するとその日のワークに参加できなくなり、振り返りシートも提出できなくなるので注意すること。
*履修に関する詳細は、第1回目の授業で知らせてみます。

備考

このコースは体験学習がテーマの授業であるため、黙って出席しているだけでは授業に参加しているとは見なされません。積極的にコミュニケーションを実践し学習することで、コミュニケーション能力を培いたいと強く希望する人は受講してください。第1回目の授業で、履修に関する重要な説明と体験学習を実施しますので、必ず出席してください。なお、新型コロナウイルスの感染状況によって授業形態が変更になる可能性があります。大学および担当教員からの連絡は、必ず確認してください。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

授業で使用する教材は、授業中に配布する。

授業計画

回	授業内容
1.	コースガイダンスとラボラトリー体験学習(1)
2.	ラボラトリー体験学習(2)
3.	ラボラトリー体験学習(3)
4.	ラボラトリー体験学習(4)
5.	ラボラトリー体験学習(5)
6.	ラボラトリー体験学習(6)
7.	ラボラトリー体験学習(7)
8.	ラボラトリー体験学習(8)
9.	ラボラトリー体験学習(9)
10.	ラボラトリー体験学習(10)
11.	ラボラトリー体験学習(11)
12.	ラボラトリー体験学習(12)
13.	ラボラトリー体験学習(13)
14.	ラボラトリー体験学習(14)
15.	ラボラトリー体験学習(15)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ: グループワーク
<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ: 実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

その週の授業の復習として、毎回、授業内容に関する感想や考察、質問等を「振り返りシート」に執筆し、提出する。(2時間)
次週の授業準備のために課せられた課題に取り組み。(2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースは以下の点において、人間社会学部心理コースのディプロマポリシーに貢献する。
(1) 自己理解と同時に人々の心理を理解し、グループワーク等を通じてコミュニケーション能力を培うことは、よりよい人間社会の創造につながる。
(2) この授業ではグループワーク等を通じてコミュニケーション能力を培う体験型授業であり、授業における体験をクラス全員と振り返り、また、個々人が内省することで、日常生活だけでなく、ビジネスや援助場面等、その他、諸々の社会生活の場面における実践へとつなげることができる。
(3) 授業では異文化トレーニングや対人コミュニケーションの理論に基づき、体験学習を実践するが、その際、実践だけではなく、人の心理と行動に関する知識も深めることができ、ビジネス場面や援助場面で応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

体験学習を主眼とする授業であるため、毎回、学生間、講師と学生間の双方向の活動を実践する。

実務経験の有無及び活用

備考

このコースは体験学習がテーマの授業であるため、黙って出席しているだけでは授業に参加しているとは見なされません。積極的にコミュニケーションを実践し学習することで、コミュニケーション能力を培いたいと強く希望する人は受講してください。第1回目の授業で、履修に関する重要な説明と体験学習を実施しますので、必ず出席してください。なお、新型コロナウイルスの感染状況によって授業形態が変更になる可能性があります。大学および担当教員からの連絡は、必ず確認してください。